

傾聴ボランティア・フォローアップ研修レポート

4月22日に、「傾聴ボランティア・フォローアップ研修」を開催しました。密を避け、受付時の検温・消毒、マスク着用、スタッフのフェイスシールド着用等、感染予防対策を徹底しての開催です。

今回の研修は、コロナ禍で1年以上の間、活動が休止している傾聴ボランティアグループの方々を対象に開催しました。研修の前半は、withコロナ時代のコミュニケーションツールの活用として、「スマホでご挨拶!～ZOOM初体験～」の講義とワークショップを行いました。後半は「施設のボランティア受入の現状と今後について」をテーマとして、ボランティアの受入先である高齢者福祉施設の北九州シティホーム曾我施設長にお話を伺いました。

ZOOM初体験のワークショップでは、参加者のスマートフォンやパソコンを使って、皆さんが画面を通じてつながることができ、「ZOOMの仕組みを知ることができてよかった。今だからこそ、使うことができたと思う。」「もう一度家で見直して活用したい。」「思っていたより、できるかも、と思った。」とのお声をいただきました。

施設のボランティア受入の現状と今後についての講義では、「施設の現状を知ることができて良かった。コロナの状況が好転したならば、また、是非ボランティア活動を再開したい。」「施設の内情を知れて、ボランティアの大切さを再認識した。」などのお声をいただきました。

今後も、講座毎に受講者のニーズを適確に捉え、実践に結びつく研修を開催していきます。



スマホでご挨拶! コミュニケーション



北九州シティホーム 曾我施設長 講義風景

受講生募集

視覚に障害のある人へのボランティア入門講座

障害のある方の困り事に気づき、思いやりの心を声かけや行動にしてみたい。

ボランティアで困り事を少しでも解消できるの?

本講座では、誰もが安心して暮らせる共生社会を目指して、障害のある方の心に寄り添い、支援について学ぶとともに、ボランティア活動に関心のある方には活動の窓口へつなげます。

- 開催日時 9月11日(土) 10:00～12:00 (9:30～受付)
- 会場 ウェルとばた12階 H・I研修室 (戸畑区汐井町1番6号)
- 対象 障害がある方へのボランティア活動に関心のある方
- 受講料 700円
- 定員 30名
※申込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。
- 申込方法 電話またはGoogleフォームでお申込ください
- 申込締切 8月20日(金) 必着

※新型コロナウイルス感染症のさらなる感染拡大等今後の状況によっては本講座を延期する場合もございます。その際はご了承ください。

↓ 受講申込
QRコード



受講生募集

ボランティアコーディネーター研修

【ボランティアとのかかわり方を学ぼう!!

～いま求められるボランティアコーディネーションとは～】

地域やさまざまな施設などでボランティアさんが活躍しています。『どうやってボランティアを受入れたらいいの?』『受入れ側の心構えって?』そんな疑問をお持ちの方にぴったりの講座を開催します。ボランティアさんのやさしい心と心、人と人をつなぐより良いコーディネーションについて、みんなで一緒に学びませんか?

- 開催日時 8月20日(金) 13:00～15:30
- 会場 ウェルとばた12階 H・I研修室 (戸畑区汐井町1番6号)
- 受講対象 社会福祉施設や病院、市民センター、校(地)区社会福祉協議会活動等において、ボランティアコーディネーション(ボランティア受入等)を担う方
- 定員 30名(応募者多数の場合は抽選となります)
- 受講料 700円
- 申込方法 FAX・郵送・電話、またはGoogleフォームでお申込みください。
- 申込締切 8月6日(金) 必着

※新型コロナウイルス感染症のさらなる感染拡大等、今後の状況によっては本研修をオンライン(Zoom)開催や延期する場合もございます。その際はご了承ください。

↓ 受講申込
QRコード

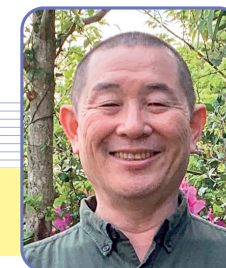


シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」34

住民の語り合いと 習慣化で作る防災

防災ファシリテーター

ふるの よう いち
古野 陽一 さん



●つばやきから始まった地域防災

「まち協の防災訓練、畠田からは4人だけやった。」

2016年1月、自治会長が困ったようにつぶやいた。私が類似公民館長を務める若松区畠田は、土砂災害危険区域を抱えているが、防災意識は必ずしも高くはなかった。自治会で防災事業実行委員会を立ち上げ、畠田独自の防災訓練を入れた新年度事業計画を総会に諮ろうとしていた4月、熊本大地震が発生した。連日の報道に住民の意識は防災に向かい、5月に防災について語り合うカフェを開いた。10月に危機管理室を招いてDIG(災害図上訓練)を行い、翌週には防災訓練を実施した。100名を超える住民が参加した。

●語り合いで作る地域防災

2017年、実行委員各々が防災の学習をはじめ、私にも北九州市の防災事業「みんなde Bousaiまちづくり事業」のファシリテーターのお誘いがきた。一も二もなく参加し、地域住民の語り合いで防災を形作る手法を学んだ。畠田の防災にも取り入れ、5月に市民防災会議、6月下旬に防災訓練を行い200名以上が参加した。その直後の7月5日に九州北部

豪雨災害が発生し、7日未明には北九州市を豪雨が襲い、畠田でも浸水や崖崩れの被害が起きた。7月の振り返り会議には50名を超す住民が集まり、災害への備えを語り合った。その中から、数世帯のグループを単位とした連絡網と助け合いの「畠田緊急ネットワーク」が出来上がった。

●防災は長期戦～習慣化が対策

災害はいつ起きるかわからない。防災は数十年単位の長期戦だ。災害への危機意識だけでは戦えない。対策は自治会での習慣化しかない話し合われた。年明けからネットワークの見直しを始め、組単位の常会で近況を報告し合うようになった。春には新年度版ネットワークが完成し、防災訓練を行い、振り返りで語り合う。毎年これを繰り返す。コロナ禍で様々な行事が中止になる中でも、グループ単位の各戸訪問でネットワークは更新された。防災訓練は情報伝達訓練だけになったが9割以上の世帯が参加した。

「今年の計画は?」という問いかけに「徹底して慣れるまでやるのが訓練」と実行委員が口々に言うのがうれしかった。